

『本願寺 四日市別院』

全国の別院シリーズ その32

大分県宇佐市の四日市に、東西本願寺別院の大伽藍が隣接して建てられています。四日市別院の源流は16世紀後半、石山本願寺の顕如上人に帰依した宇佐郡の豪族・渡邊蔵人統綱：出家して専誉の創建した草庵が始まりと言われています。

延享5（1748）年、四日市別院本堂建築に取り掛かる。資料「四日市村年代記」によると、「地形、石・土持に諸方により引き続き大勢が集まり、大変な賑わいであった」と記されていた。

本願寺第17代門主・法如上人は四日市に別院が発足したことについて、「諸国兼帯の霊場はおほしといへとも、西国に於いてはその坊舎まれなるか故、多年この志願ありぬる処に、去ぬる延享のころゆへありて、豊前国宇佐郡四日市において一字の建立を企て、（中略）実に真宗の門葉報恩の念力ゆへとよろこひ入候」とお慶びになられ、九州のお寺・門徒に対して西別院の護持発展を仰せられています。

別院施設は本堂・茶部屋・対面所・御殿・長御殿・香房・輪番所・御茶所・総会所・会所が整備され、太鼓楼・鐘楼を両軸に備えた本門、前門、二重に構えられた築地筋塀に囲まれ、壮大な偉観となりました。

このほか本堂建築にあたり、ご本山阿弥陀堂で使用されている「蓮台柱」の使用を特別に認められ、当時の本願寺第20代門主・廣如上人は九州第一の寺院という意味の「海西真宗甲刹」額字ご染筆を与えています。この額字の寸法は福井御坊の額字と同様にしています。内部の法具についても、西山御坊（別院）、津村御坊（別院）を参考にし、この西別院をいかに重要視していたかが伺えます。

今後もお念仏相続の拠点として、九州御坊・四日市別院がのちの世に語り継がれていくことが期待されます。



本堂：安政6年（1859）に建てられ、平成12年に大改修。広さは十九間四面、両余間56畳、両三の間24畳、下陣は154畳。



総会所：布教が行われる建物



経蔵：一切経が安置されている建物

今後の法要スケジュール

「報恩講」 (善教寺本堂)

十二月 二日 (日) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 登世岡浩雄師 (広島市東区牛田安楽寺)

*お接待当番 中郷地区

*送迎マイクロバスを運行します。

「宗祖聖人月忌」

門信徒様月命日法要 (善教寺本堂)

十二月 十六日 (日) 午後一時半

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「除夜会」 (善教寺鐘楼堂)

十二月三十一日 (月) 午後十一時四十五分

*鐘楼堂にて除夜の鐘を撞きます。

「元旦会」 (善教寺本堂)

一月 一日 (火) 午前七時

「御正忌法要」 (善教寺本堂)

一月 十二日 (土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 浄謙恵照師 (北広島町奥原浄謙寺)

*送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://otera.or.jp/>

メール zenkyo@otera.or.jp